The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 学習支援担当者のためのライティング支援入門講座 |
| Author(s) | 堀, 一成 |
| Citation | |
| Version Type | AM |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/58038 |
| rights | |
| Note | |

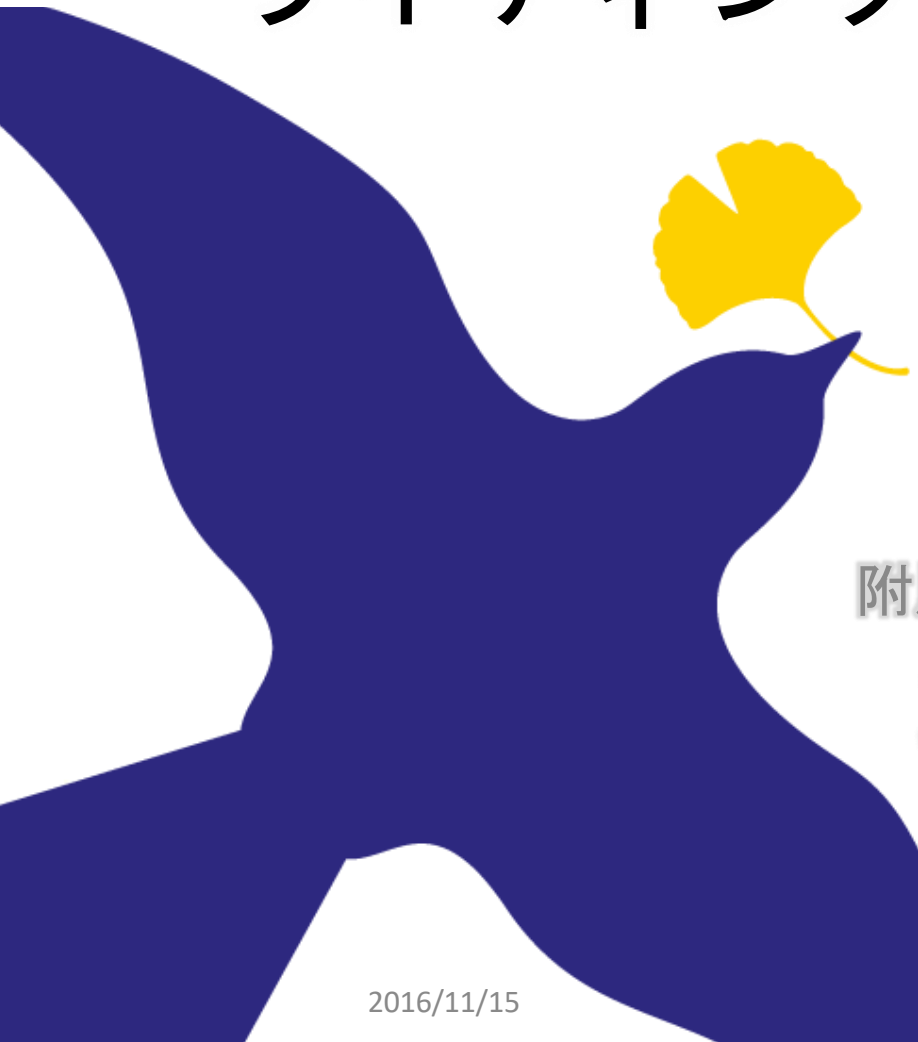
*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

大阪大学 職員研修
2016年11月15日＠大阪大学 豊中総合図書館 図書館ホール

# 学習支援担当者のための ライティング支援入門講座



大阪大学
全学教育推進機構
附属図書館 研究開発室
堀 一成


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 今日の内容

- 新入生配布ライティング小冊子と
  教員用マニュアルの紹介
- 堀など大阪大学が実践している
  （図書館を中心とした）
  ライティング授業・講習の事例紹介
- 新入生に最低限教えるべきこと？
- 参加者事例に基づく
  科目内指導へのグループワーク
- これからのライティング指導について


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 自己紹介

- １･２年生を対象とする共通教育
（教養教育）を担当する組織の教員
主な研究分野は　多言語資源･数理工学など
- 旧大阪外大では情報リテラシー教育
（IT分野の意味での）や
プログラミング教育を担当
- 旧大阪外大　情報処理センター長
（平成１６年４月～平成１９年９月）
情報システムの運営や監査なども担当
- 最近、図書館利用教育･自主学習支援など
学習者中心教育の試みに仕事がシフト


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 大学に求められる学びのあり方の変化

旧

教員→学生　の　講義形式
知識の獲得・調べたことをまとめる

新

相互協調学習
（教員・職員はサポート役）
{問題発見法・学ぶ方法・
学びの姿勢}の獲得
自らの考えを他人に発信

相応しい場の提供が必要！


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 第2期教育振興基本計画（中教審）2013年4月25日

- ８－１ 改革サイクルの確立と学修支援環境整備
- …ティーチング・アシスタント等の教育サポートスタッフの充実，学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化，ICTを活用した双方向型の授業・自修支援や教学システムの整備など，学修環境整備への支援や…

【答申P.56より引用】


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 大学図書館の整備について【概要】2010年12月

- （3）大学図書館に求められる機能・役割
- ①　学習支援及び教育活動への直接の関与
- ア。学習支援
  ○　学生が自ら学ぶ学習の重要性が再認識され、ラーニング・コモンズ、大学図書館職員等によるレファレンスサービス、学習支援が重要。
- 【概要P.1より引用】


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 大学図書館の整備について【概要】2010年12月

- （3）大学図書館に求められる機能・役割
- ①　学習支援及び教育活動への直接の関与
- イ．教育活動への直接の関与
  ○　情報を探索し、分析・評価し、発信するスキルを一層高める情報リテラシー教育は、大学図書館が主体となって取り組むことが求められており、（以下略）
- 【概要P.1より引用】


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# ミニワークその1

- これまでみなさんがなにか書くことについて指導をした経験があれば、その際に遭遇した「困った文章やレポート」の例をホワイトボードに書き出してください。（10分）
- 経験のない方は予想してください。
- グループで、その例をもとに、それにどう対処したか、話し合ってください。（5分）そのあとグループ発表。（各グループ2分）


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 大阪大学 アカデミック・ライティング 小冊子　第3版　の紹介

- アカデミックライティングの
必要事項をコンパクトにまとめた
小冊子（A5　32ページ）
- ４月新入生全員に配布した
- ライティング時のアウトライン設計とその詳細化について加筆
- 共通教育科目担当教員に対し、
冊子を利用したレポート課題を出し、
採点フィードバックしてもらうことを
協力要請した（シラバス作成時に協力要請）


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# ライティング指導教員マニュアル

- 小冊子を使って教える教員のための指導内容の手引き（サンプル提示）
- 阪大のライティング教育の現状
- ライティング指導すべき項目案
- ルーブリックの利用も提案


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 小冊子・教員マニュアルの大学リポジトリデータ化（配布省力化）

大阪大学リポジトリOUKAよりPDFが

学生配布小冊子　　自由にダウンロードできる

http://hdl.handle.net/11094/54512

教員マニュアル（関連スライドも）

http://hdl.handle.net/11094/54513

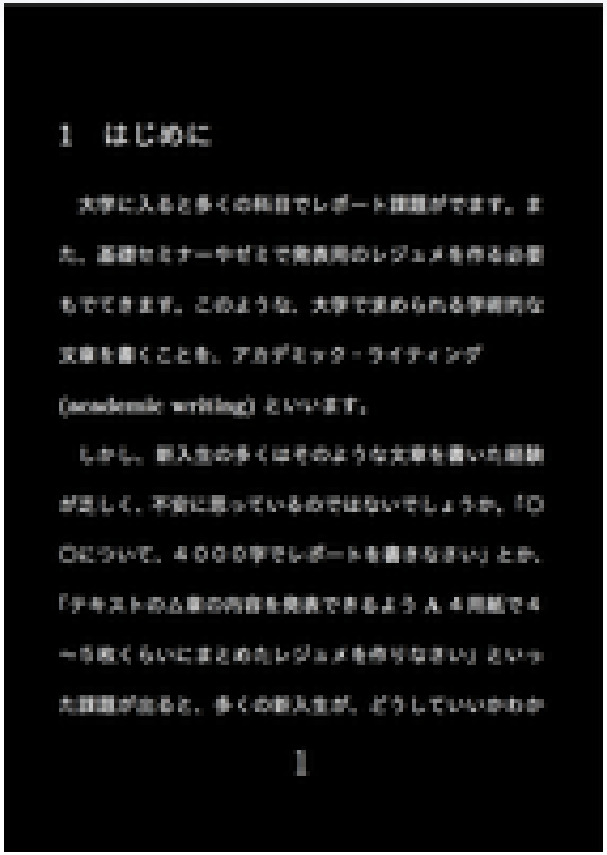
【2016年3～10月】ダウンロード数

| | 学外 | 学内 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 冊子 | 16,281 | 609 | 16,890 |
| マニュアル | 637 | 71 | 708 |


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# ライティング冊子　大文字、白黒反転版

- 弱視（ロービジョン）、視覚障害の利用者のため
- アカデミックライティング小冊子を大きな文字化白黒反転化した。用紙はA4サイズに拡大
- スマートフォン利用の際にも便利



1　はじめに

大学に入ると多くの科目でレポート課題がでます。また、基礎セミナーやゼミで発表用のレジュメを作る必要もでてきます。このような、大学で求められる学術的な文章を書くことを、アカデミック・ライティング (academic writing) といいます。

しかし、新入生の多くはそのような文章を書いた経験が乏しく、不安に思っているのではないでしょうか。「○○について、４０００字でレポートを書きなさい」とか、「テキストの△章の内容を発表できるようＡ４用紙で４～５枚くらいにまとめたレジュメを作りなさい」といった課題が出ると、多くの新入生が、どうしていいかわか

1

大文字版
http://hdl.handle.net/11094/54606
白黒反転版
http://hdl.handle.net/11094/54607


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# これまでの大阪大学アカデミックライティング指導のおもな試み

- 全学教育推進機構　坂尻准教授・堀担当
  基礎セミナー　15回授業
  各20名ほどの学部1年生など　4コマ実施
  2016年度には全学部新入生対象ライティングスキルアンケートの実施
- 堀担当（附属図書館のイベント）
  レポートの書き方講座
  20名くらいの学部1年生など　全3回
  論文の書き方・文献の読み方プチゼミ
  10名くらいの学部上級生・大学院生　全4回
- その他部局でも各種イベントあり


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# ライティング基礎セミナー

- 2016年度は、前期3コマ、後期1コマ
  15回正規授業　（受講者は各20名くらい）
- 図書館での情報探索、
  リーディングのテクニック、
  プレゼン準備なども実習
- グループ（4～5人）でテーマを決め
  個別に学術的なライティングにチャレンジ
- ほぼ毎回宿題を出させて、
  ルーブリックでフィードバック。
- 学生同士の相互評価もさせる。


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 受講者が特に困っている点

- レポートの指示内容が不明
- 指示はわかっても、何を書いたらいいかわからない
- 引用の仕方がわからない
- 書き出しをどうしたらいいか分からない
- 学術的文章を書くためのプロセスが分からない
- 感想文などの主観的な文章は書き慣れているが、客観的な文章表現は苦手


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 種々事情下でのライティング指導

- とりあえず長文レポートが書けないと言ってくる！
  ⇒　段階を踏んで書く方法を教える
- ライティングのみのことに時間が割けない！
  ⇒　少しの内容を細かく入れ込む
- フィードバックがうまくできない（時間が足りない）！
  ⇒　ルーブリック・TAの活用
- コピペレポートに困っている！
  ⇒　自覚を促す、OKな方法を指導


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 学生（特に学部新入生）は アカデミックライティングの基本項目を知りません

- 怒らないで簡単なマナーを
  まず知らせてください（あるいは一緒に確認）
  用紙のサイズ
  表紙が要るか、要らないか
  用紙の止め方（上、左、右、など）
  学術的文章の特徴
  （用語・論証のあり方など）
  事実と意見・考察の書き分け
  参考文献の示し方（分野による）


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 教える側も「どう教えると良いか」を学びましょう

- 「どう教えると良いか」
  ⇒　インストラクショナルデザイン
- 目標を細かな段階に分けて提示する
  （スモールステップの原則）
- 即時フィードバックを心がける
- 抑制的に情報を提示する
  （一度に全部説明や指摘をしてしまわない）
- 相談者のニーズが何かを把握する
- 相談者の意図しているゴールを確認する
- 相談者の学習態度を確認する
- 向後千春 著「上手な教え方の教科書」技術評論社　より内容を抜粋


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 何を書いていいかわからない

┐(´～`;)┌

## レポート課題

⇒ 「問と答」ペアに展開

- 「大阪大学の共通教育について述べよ」を問
  「大阪大学の共通教育の特徴は？」
  答
  「全学部出動態勢で実施している
  ことです。」
  ⇒どうしてこの答なの？根拠は？


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# アイデアのまとめ方も ぜひ教えてください （みなさん独自の方法でOK）

- とりあえず書きだす（ブレインストーミング）
- 付箋を使ってまとめる　KJ法？
- マインドマップを書く
- 自己流らくがき


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# パラグラフ・ライティングを教えてください

- 漠然と文のかたまりを作らない
  トピックセンテンス
  サポートセンテンス（その他の文）
  トピックと無関係な内容をパラグラフに入れない
- 実は高校英語で基本を習っている事も
  日本語は関係ないと思っていたとの発言も！


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# リーディングもアドバイス

- 教科書・配布レジュメを
  レポート文案例と意識させ読ませる
  （一部丸写しは良い訓練？）
- 気に入っている参考図書を紹介する
- 新聞・雑誌はちょっと的外れ？
  学部新入生に学術論文は早すぎ？


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# ルーブリックを活用しましょう

- 提出物の評価項目と評価基準を明示しておく
- 採点は該当箇所を〇つけるだけ
- 課題を出すときに学生に提示することが重要
- 採点結果も返すことが重要


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# ミニワークその2

- ライティング指導に使えるルーブリックを作ってみましょう
- サンプルを参考にしていただき、これまで指摘したことのある評価項目や、今後機会があれば指摘しようと思う評価項目を書いてください。（10分）
- 元の課題情報があれば上に書いてください。
- グループで、その例を見せ合い、評価項目のあり方や、課題の出し方にさらに工夫できないか、話し合ってください。（10分）


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# TAを活用

- TAはレポート採点可能ではありませんか？
（大阪大学では採点のみ可、成績評価はだめ）
- レポートコメント作業は
院生にとって大きな学びの機会と強調
- コメント基準は良く打ち合わせする
（ルーブリック活用）
- 大阪大学では、ライティング支援TA養成も
視野にいれた大学院科目
「学術的文章の作成とその指導」を
開設しています


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# コピペ対策：アカデミック世界の一員であるとの自覚を促す

- 誇りを持たせる
（大学生は、否応なく
アカデミック世界の一員だと説明）
- コピペがいかに泥棒な行為であるか
説明する
（試験カンニングと同じで、[大阪大学の場合]
半期単位全滅の話もしてよいかも）


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# コピペ対策：引用と参考文献提示法をなるべく詳しく説明してください

- 学生は、OKな方法を知りたがっています
- 教員や分野によってルールが違うので各自で説明してください（あるいは一緒に確認してください）


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 高等学校「言語活動」について

- 新学習指導要領
（平成28年3月卒業生から）
- すべての単元が対象
- 思考力・判断力・表現力の育成
- アクティブラーニングの姿勢も重視
- ここ数年の新入生の変化に着目


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 高等学校等の新学習指導要領の実施に当たって（通知）

- 平成２５年４月１日
- 言語活動を充実する趣旨を確認し，各教科等の目標と関連付けた効果的な指導を行うこと

より抜粋

- 「新しい学習指導要領においては，国語をはじめ**各教科等において**，**説明，論述，討論，記録，要約等の言語活動の充実を図る**よう定めている」
- 「各学校においては，これまでの言語活動を通じた指導について十分検証しつつ，各教科等の目標と指導事項との関連及び生徒の発達の段階や言語能力を踏まえて言語活動を適切に位置付け，授業の構成や指導の在り方を工夫改善していくよう一層努められたい。」


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# さらに次の学習指導要領では

- 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて」
（平成28年8月26日教育課程部会）
- 「主体的・対話的で深い学び」を重視
- 高校「論理国語」「国語表現」科目の創設
- 高校「理数探究」科目の創設
- プログラミング的思考も重視
⇒強固な論理思考力の獲得


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# 今後の展開

- （阪大の場合）
  大規模ライティングセンターが無い！
  ⇒　全教員・全職員が責任を持つ！！
  ⇒　各種テキスト・マニュアル・FD
- 新指導要領習得学生に期待
  ⇒　過大な期待はできないか？
- 学内の類似の試みをつなげていく


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.

# まとめ

- 最低限教えるべきこと
  - 課題→レポートにどう持っていくか
  - パラグラフ・ライティング
  - アカデミック倫理の気の持ちよう
    （コピペダメです！だけでなく）
  - 教員が期待している提出物の形式

- 教員・指導者が工夫すべきこと
  - 課題の出し方（教員、指導者は助言）
  - 評価・フィードバック
    （できるだけ時短で）
  - サポート利用の呼びかけ（教員に働きかけ）
  - 学内活動に気を配る（連携に協力を）


(C) 2016 Kazunari HORI, Osaka Univ.